

# 経済を軸にみるアジア世界 歴史と現状

原 洋之介

本講義資料内の著作物の再使用、二次的著作物の創作などについては、  
著作権者より直接承諾を得る必要があります。

# 第二講

## 大文明圏 中国とインド

2006年5月25日

# 1) 中国

- 華北文明

中原

城郭都市

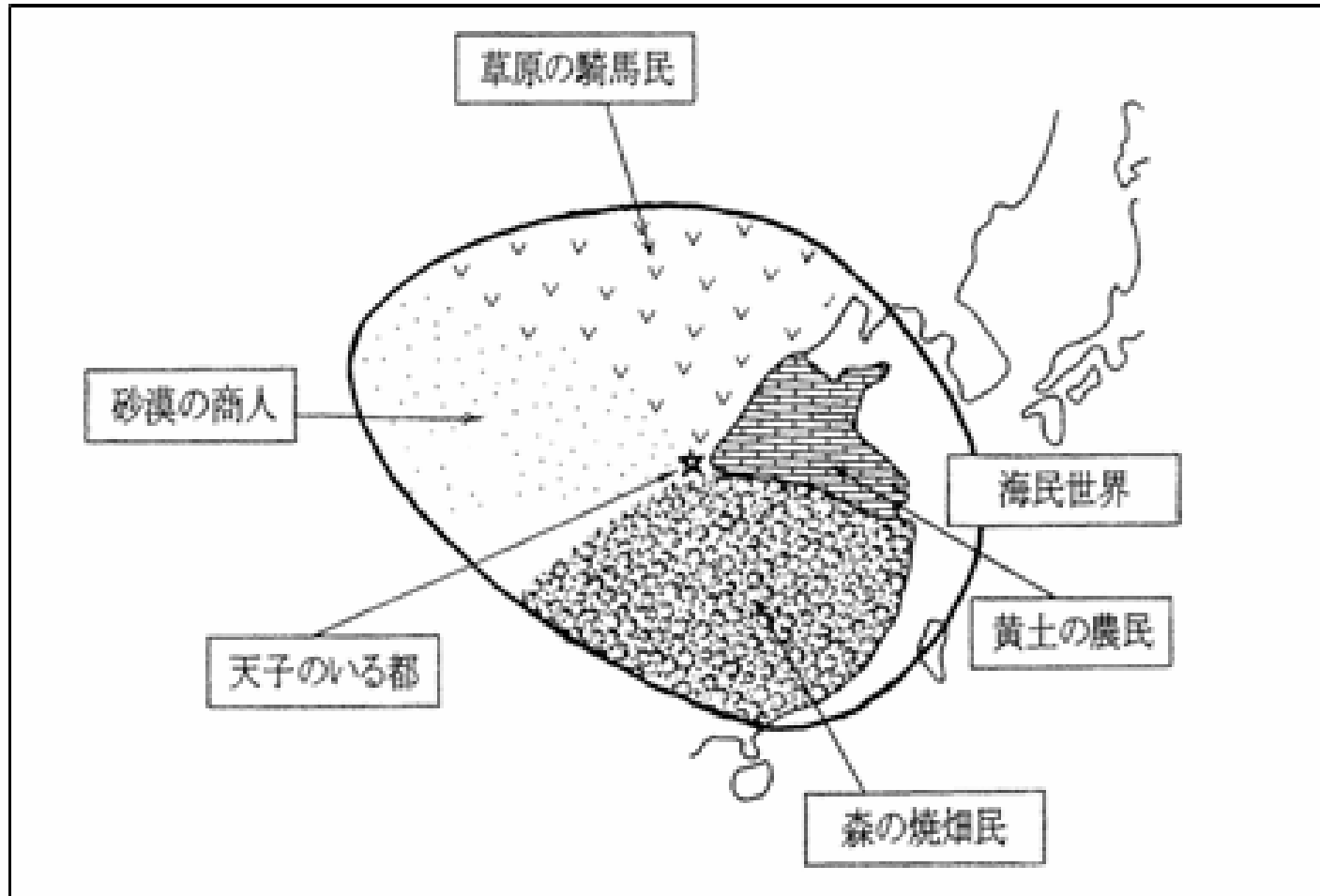
黄土平原での畑作 麦、雑穀

- 華南文明

長江中流・下流域

灌漑農業 稲作

# 中国の生態史的枠組み



# 中国の市場経済

- 商人・商業の発達した経済 牙行・銭荘・票号
- 国家と民間 財産の所有権 官監商弁
- 競争社会と家族主義

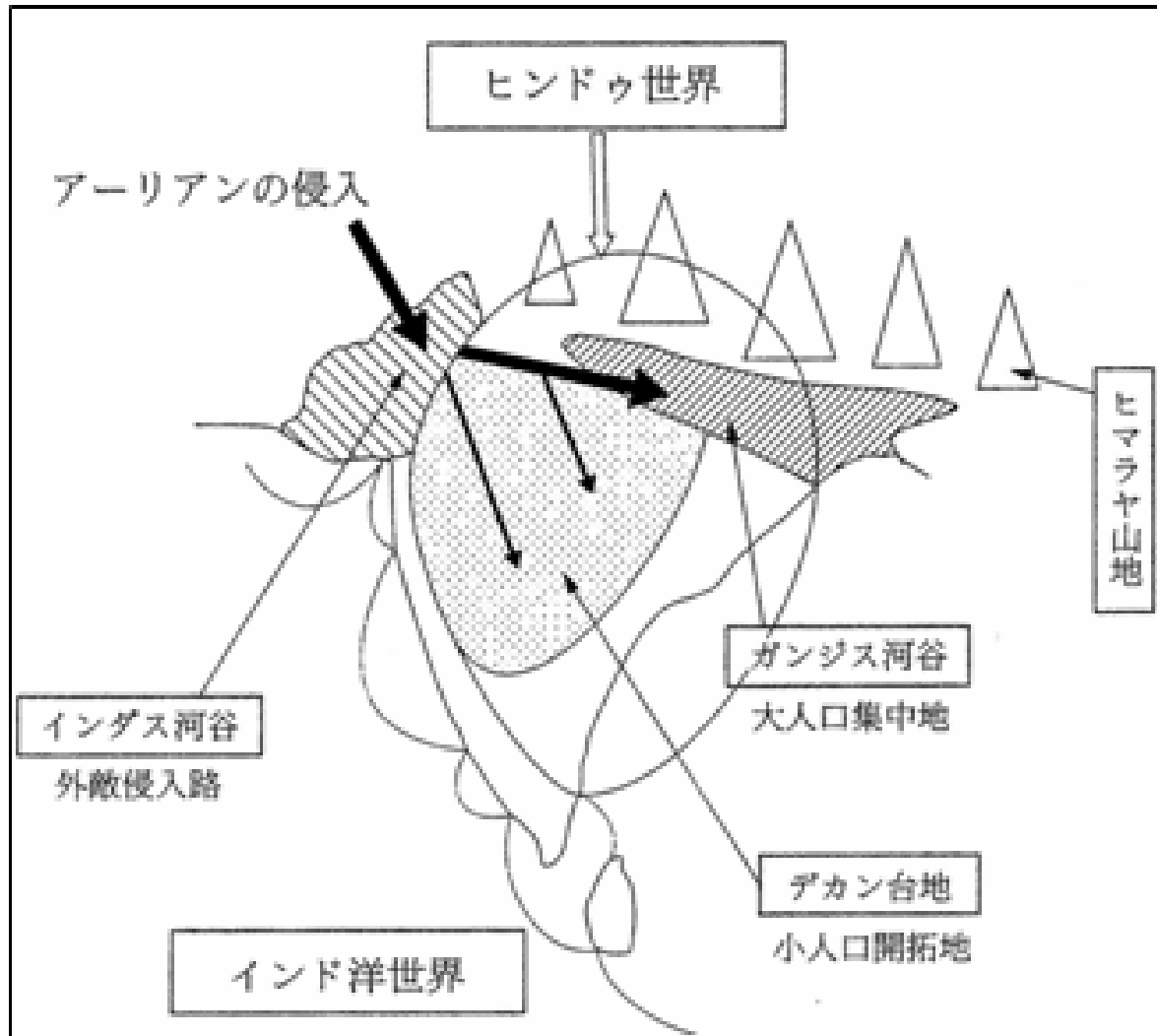
- アダム・スミス『国富論』

「シナは長い間停滞しているように見えるし、おそらくずっと以前に、同国の法律や制度の性質と両立するかぎりの富の、全量を獲得したのだろう。しかしこの全量は、別の法律や制度があれば、その土壌や気候や位置でできるかもしれないものに、はるかに及ばないだろう。」

## 2) インド

- ヒンドゥー文明圏
- インダス乾燥帯  
畑作 / 冬作での麦 / 遊牧
- ガンジス湿潤帯  
多雨湿潤 / 夏作での稲作
- デカン高原  
玄武岩大地 / 綿作

# インドの生態史的枠組み



# ヒンドゥーに埋め込まれた市場経済

- カースト

経済活動のカースト・ジャタイへの埋め込み  
細分と統合の論理を入れ子構造に持つ社会

「数世紀前まで、西欧の子供たちはインドの豊かさを聞きながら大人になった。そんなインドがどうして、一人当たり所得の低い貧しい国になったのか。」

(アマルティア・セン)